The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	メタフュシカ 第38号 彙報
Author(s)	
Citation	メタフュシカ. 2007, 38, p. 171-173
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/6145
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【彙報】

○　哲学哲学史・現代思想文化学

現在、学部の哲学・思想文化学専修には、2 年生 3 名、3 年生 8 名、4 年生 13 名が在籍しています。大学院の哲学哲学史専門分野には、博上前期課程 4 名、後期課程 5 名が、大学院の現代思想文化学専門分野には、博士前期課程 4 名、後期課程 6 名が在籍しています。他に学術振興会研究員が 1 名在籍しています。本年度からは中村征樹准教授と重田謙助教がスタッフに加わり上野修教授、入江幸男教授、舟場保之准教授、および須藤訓任教授、望月太郎教授とともに、臨床哲学所属の教員と連携しつつ、学生の教育・研究指導に当たっています。

本年度の講義･演習は、「17 世紀近世哲学における様相の問題Ⅴ，Ⅵ」「ベルクソンを読む」「スピノザ『エチカ』を読むⅢ」「フランス近・現代哲学史概説」（上野教授）、「Searl, “Mind” を議論する」「Strawson, “Individuals” を議論する」「ドイツ語文献読解入門」「ドイツ観念論の概説」（入江教授）、「哲学史におけるカント」「カント『純粋理性批判』を読むⅦ」（舟場准教授）、「家族関係から見るショーペンハウアー哲学（6）」「ニーチェの歴史思想（1）」「ニーチェ『道徳の系譜学』研究（3）」「フロイトの『トーテムとタブー』（1）」「英米哲学基本文献読解」（須藤教授）、「オルターグローバリゼーションの思想Ⅰ，Ⅱ」「フランス近代哲学史概説」「批判的思考と議論法」（望月教授）、「科学技術論入門」（中村准教授）という題目で行なわれています。また、その他に、修士論文･博士論文作成のための演習が定期的に行なわれ、活発な研究･討論が行なわれています。

また非常勤講師としては、金山弥平先生（名古屋大学）に「プラトンの認識論と方法論」、山田友幸先生（北海道大学）に「言語と行為」という題目で講義していただいています。

哲学を音声で伝える試みとして、ウェブ・ラジオ局「ラジオ・メタフュシカ」（http://radio.metaphusika.net）を開局し、研究室の活動状況などを公開しています。また海外に研究成果を発信するために、欧文機関紙 Philosophia OSAKA を刊行しています。この雑誌は本誌『メタフュシカ』とあわせて、研究室の HP（http://www.let.osaka-u.ac.jp/philosophy）の「出版物」のページから閲覧することができます。

哲学哲学史・現代思想文化学の研究会として、handai metaphysica を開催しています。特別講演会としては 2007 年 3 月 5 日に、M・ダリシエ氏（Center of Research on Chinese, Japanese, Tibetan Civilization）に「西田幾多郎の『場所の論理』は西洋論理の理解に役立つか？――分析哲学の形而上学的場所論――」という題目で講演していただきました。また、研究例会としては、同年 3 月 19 日に入江教授・前田氏（種智院大学）・山口院生の各論文（『メタフュシカ』第 37 号掲載）の合評会を行い、また同年 8 月 3 日には金山弥平教授（名古屋大学）に「プラトンの想起、メタファー、似像」という題目で、同年 12 月 12 日には山田友幸教授（北海道大学）に「社会的コミュニケーションの論理的ダイナミクス」という題目で発表していただきました。いずれにおいても活発な質疑応答がなされました。

ライプニッツ研究会（2007 年 3 月 26 － 27 日）において山口裕人院生が「個体化論に於ける

ライプニッツ」という題目で研究発表を行いました。

AIPU（Association Internationale de Pédagogie Universitaire）第24回大会（2007年5月16日－18日）において望月教授が“Pratique de l'évaluation des cours par les étudiants à l'universite”という題目で研究発表を行いました。

日本哲学会第66回大会（2007年5月19日－20日）の共同討議「ジェンダーと哲学」において舟場准教授が提題者として「ジェンダーは哲学の問題とはなりえないのか」という題目で発表を行いました。

日本ディルタイ協会2007年関西研究大会（6月30日）において入江教授が「フィヒテ哲学の全体像を求めて――知識学の変転とその理由」という題目で講演を行ないました。

Internatinal Congress of Logic Methodology and Philosophy of Science 第13回大会（2007年8月9日－15日）において入江教授が“Contradiction in Question-Answer Relation”という題目で発表を行ないました。

須藤教授が編集委員の一人となっている『フロイト全集』（岩波書店）の第4・7・17・18・22巻が昨年2006年11月から2007年8月にかけて刊行されました。そのうち第17巻『1919－1922――不気味なもの、快原理の彼岸、集団心理学』は須藤教授が翻訳（共訳）されています。

2007年8月20日付日本経済新聞朝刊に望月教授が執筆した記事「高等教育の地域統合と国際化――ボローニャプロセスのインパクト――」が掲載されました。

日本フィヒテ協会第23回大会（2007年11月17日）において入江教授が「『意識の事実』における諸自我と共同自我」という題目でフィヒテ協会会長講演を行ないました。

森田邦久研究員が「科学とは何か――本質を探究する学としての科学――」という題目で、重田謙助教が「像の破壊と現出――『哲学探究』における規則論と私的言語論、その論証、帰結、そして限界――」という題目で、それぞれ2007年3月に博士号を取得しました。

2007年9月から2008年1月まで、舟場准教授がドイツ・Johann Wolfgang Goethe大学において在外研究を行っています。前田秀明院生と安里淳院生が2007年4月からドイツ・ミュンヘン大学に、また昨年に引き続き、冨岡基子院生がフランス・高等研究院（EHESS）に、津崎良典院生がフランス・パリ第一大学に、学部卒業生の和泉悠さんがアメリカ・メリーランド大学に留学しています。また大場一雅院生がフランス･パリ第一大学において修士号を取得後2007年7月に、梶岡裕加学部生が2007年4月に留学先のドイツ・ミュンヘン大学から、それぞれ帰国しました。

（重田）

○　臨床哲学

本年度の当研究室の在籍者は、学部生31名、大学院前期課程8名、大学院後期課程4名である。鷲田清一教授、中岡成文教授、本間直樹准教授、紀平知樹講師、家高洋助教の各教員スタッフが哲学哲学史、現代思想文化学の教員と連携しつつ、教育・研究活動に当たっている。

鷲田教授が6月に大阪大学総長に選出され、8月から3年間を務められることになり、そのた

めに文学研究科教授を退官された。大阪大学では文系出身の初の総長である。

本年度の非常勤講師として、小林傳司教授（大阪大学コミュニケーションデザイン･センター）が科学社会学を、霜田求准教授（大阪大学大学院医学系研究科）が生命倫理を講義した。なお、堀江剛准教授（広島大学大学院総合科学研究科）がシステム論と哲学的対話に関する集中講義を行った。

鷲田教授の『京都の平熱』（講談社）と『思考のエシックス』（ナカニシヤ出版）がそれぞれ 3 月と 6 月に、中岡教授の「パラドックスの扉」（岩波書店）が 12 月に刊行された。

また、本間准教授が責任編集した『フロイト全集第 18 巻　自我とエス／みずからを語る』（岩波書店）が 8 月に刊行された。中岡教授責任編集の『フロイト全集第 8 巻　機知』（岩波書店）も近日中に刊行される予定である。

本年度の講義・演習は以下の通りである。

「臨床哲学ネットワーキング A･B」（中岡、本間、紀平）、「臨床哲学概論」（中岡、本間、紀平）、「倫理学の研究方法　A･B（中岡、紀平）」、「哲学･コミュニケーション･表現（1）(2)」（鷲田）、「自己変容の哲学 1・2」、「ヘーゲル哲学を読みぬく」（以上、中岡）、「哲学的コミュニケーションの探求と実践（1）(2)」、「メルロ＝ポンティを読む（1）(2)」、「行為・活動・コミュニケーション」、「ジュディス・バトラーを読む：身体・自己・セクシュアリティ」（以上、本間）、「現象学の成立と展開」、「環境問題と現代社会」、「フッサール「幾何学の起源」を読む」、「外国語文献演習」（以上、紀平）、「社会の中の科学技術」（小林）、「Bioethics in English（生命の臨床）」（霜田）、「現場の哲学と社会システム論」（堀江）。

（家高）